

# 台湾地震・緊急救援委員会

## 台湾第4次派遣団報告書

1. 日程
2. 第4次派遣団の目的
3. YMCAからの報告
4. 支援プロジェクトの報告(台湾希望行程協会より)
5. 感想
6. まとめ

### 1.日程

7月7日 13:00 台北国際空港着  
14:00 台北YMCAにて邱明民氏と謝聰敏氏と台湾現在の状況についてのヒアリング  
16:00 「全国民間災後重建連盟」台北事務所訪問  
17:00 財団法人9.21震災重建基金会訪問  
19:00 神戸YMCA牧田氏 台北YMCA到着  
7月8日 09:00 台北YMCAにて台北・台中・南投各YMCAの現在の活動状況・今後の活動予定についてのヒアリング  
14:00 台中へ移動  
17:30 台中到着  
18:30 台中YMCAの「ボランティア養成講座」についての意見交換  
7月9日 09:00 南投へ移動  
10:00 南投YMCAにて南投YMCAのプログラムの詳しい内容のヒアリング。その他、南投内の仮設住宅・チャイルドケアセンターの訪問  
14:00 南投県國姓郷福亀小学校訪問、福亀村全体の復興計画や台湾希望工程協会のすすめるプロジェクトについてのヒアリング  
7月10日 神戸YMCA牧田氏帰国  
09:00 信義郷譚南村へ移動  
10:30 譚南村にて村長・重建委員会の方々と会合  
15:00 東光村へ移動  
16:00 東光村訪問  
17:00 埔里へ移動  
18:00 埔里元氣村訪問  
7月11日 09:00 南投県芸術協会訪問  
14:00 埔里元氣村訪問、埔里市内の仮設住宅視察  
18:30 台北へ移動  
22:30 台北到着  
7月12日 11:00 台北国際空港へ移動  
14:25 台北出発  
18:00 関西国際空港 到着

### 2.第4次派遣団の目的

今までの支援プロジェクトは、カウンターパートである「台湾希望工程協会」の進める3つのプロジェクトへの支援(福亀小学校の教師寮建設・原住民支援・東光村支援)が今まで行われました。この3つの進捗状況の確認と台北・台中・南投YMCAの各プロジェクトの視察が目的となります。

また、今日は5月に総選挙が終わり、新政権が誕生したこと、台湾全土の状況の確認も目的と言える。

### 3.台北・台中・南投各YMCAからの報告

#### 台北YMCAからの報告

台北YMCAとしては、昨年12月で一応の区切りをつけた。また、南投YMCAと協力で埔里にチャイルドケアセンターを作り活動を行ってきたが現在は、地元の協会を利用して継続中。

また、8月と9月に一週間ずつ東京YMCAの協力により「国際ボランティアワークキャンプ」を開催予定。地震直後に台湾にボランティア活動にきた日本の若い人達にもう一度台湾に来てもらい、また、被災者の方たちと会うことで、被災者の方たちに忘れていないというメッセージを与えて欲しい。日本と台湾の共同により今後の新しい展開を期待したいとのこと。

#### 台中YMCAからの報告

チャイルドケアプログラムを中心に現在も活動を行う。当面はサマープログラムとして、7/15~8/末まで、日曜日を除く平日8:00~17:00でカリキュラムがビッグシリーズであります(台湾の夏休みは7/1~8/31)。その中で、「ディーキャンプ」と称してサマースクールを開催しています。7/11からの6週間、平日の8:30~17:00まで、台中市内の中正小学校を借り受け、野外活動はもちろん様々な教室を開きます(この小学校はこのために20教室を開設しているのです)。「ねんど細工教室」「話し方教室」「子ども英語教室」「創意工夫教室」「伝統民芸品作り体験教室」等です。また「囲碁教室」なども開かれています。

仮設でもチャイルドケアプログラムの他に「PTA活動」を開催しています。父母に対し週一回講師を派遣して開くセミナーです。テーマは「子どもの教育」「夫婦情」「家庭の理財」などで、一回のセミナーは3ヶ月コースですが父母の関心は高い。台中市の被災のあった小中学校でのセミナーには70人が参加しているそうです。

#### 南投YMCAからの報告

前述の台北・台中の両YMCAと同じくチャイルドケアプログラムを中心に活動を展開していますが、一番の違いは南投県政府から事業委託を受け活動を行っています。南投県政府が県内に23の「家庭支援センター」というセンターを設置し南投YMCAもその一つとして委託を受けている。個人情報の提供を受け、在宅ケアプログラムを行っています。

今後は、埔里にも活動を広げていきたいとのこと。



南投YMCAの方と南投県永昌村の仮設住宅を視察

### 4.支援プロジェクトの報告(当委員会カウンターパート台湾希望行程協会より)

#### 福亀小学校教師寮建設について

現在、全壊した校舎の建設が始まったばかりで、教師寮の方は校舎の完成を待ってからの建設となります。予定では来年の3月に教師寮が完成します。

台湾希望行程協会は、震災直後から国姓郷福亀村全体の再建に関わってきました。その一つとして、現在使っている福亀小学校の仮設校舎を夜間利用して、9月からコミュニティ大学を開講します。日本語教育やコンピューター教育、田園教育を行ふとのことです。

同協会がオブザーバーとなり今年5月に、「福亀村再建委員会」(委員長・邱慶禪)が発足しました。この再建委員会は村民を中心の委員会で、中心メンバーは委員長の邱さん、副委員長の陳諸亮さんその他、6名の主婦で構成されており、50名の村民が賛同しています。

再建の内容は低迷気味の農業の活性化と観光資源の開発です。具体的には直後に避難所にもなっていた、現在の「希望工程協会」の拠点を「福亀村大地災害主題館」とする計画で、村民を主体とする「福亀新展望工作室」をつくり、ここを新たな観光資源とすることと農業を連携させることであります。福亀村からは、美しい「九九峰」が眺められることから、ここに「九九峰展望平台」を設置し、あわせて資料館や児童図書館、音楽教室、セミナーハウス等を作り、観光資源としようというものです。資料館や展示館を「大地災害主題館」としており、展望台を含め、全体構想を進めるのが、「福亀村新展望工作室」という位置づけになります。



仮設校舎の前で校長先生らと  
福亀村にて

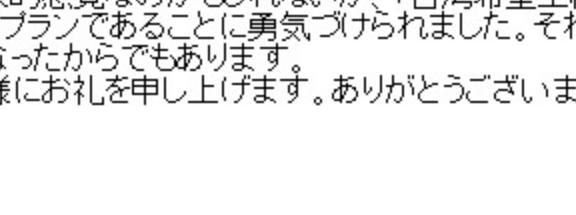


台湾希望工程協会の事務所で今までの活動の説明を邱氏から受ける  
福亀村にて

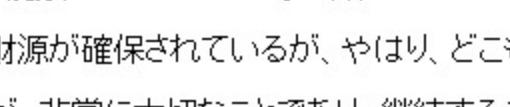
#### 東光村のコミュニティ支援

この村に140年前から建っている木造建築を借り受け、修復し、記念公園とし東光村のコミュニティの起点にというのが「9.21震災・東光村再建プロジェクト」です。

台湾希望工程協会は東光村と連携し、村のボランティアを募って、6月末から修復作業は始まりました。この家屋前の空き地を含めて228坪のスペースを記念公園にします。



百年建築物の前で邱氏にプロジェクトの説明を受ける  
東光村にて



鉄平石を積み上げて作るブノン族独特の伝統的技法で建設される「文化センター」で村長はじめ村民の方々と

### 5.感想

台湾への派遣は今回で4回目となる。5日間という短い日程で、駆け足での訪問となつたが、台湾は、近いようで政治的なことを含めてあまり情報がこないのが現状である。1999.9.21台湾全土に激震が走つてから、復興への道のりと大統領選挙という政治的なものと重なったことが、及ぼした影響というものは、大きいように思う。前政府は、選挙にお金を使いすぎ、選挙が終り新政権となった現在は、財源が非常に苦しいという話を聞いた。しかし、その中で「市民の力」というのは結構強いものを感じた。

各支援プロジェクトを中心的に重視しているKOBEでは、「地元の人たちへ還元する」を意識の念頭に置いてオブザーバー的参画でありながら、各支援プロジェクトを重視している。KOBEでは、震災から1年、2年後ぐらいから被災者への「仕事」「失業者の問題」等が盛んに呼ばれてきたと思うが、台湾では地震からまだ1年も経たないのに被災者の方たちを雇用した「まち作り」「コミュニティ作り」を目指し、実践しているところに私たちも学ぶものが多いのではないかでしょうか。また将来的には、福亀村・東光村・潭南村など被災地をつなぐ事業プランがあるようです。

NGO的感覚と言うより、実業家の感覚なのかもしれないが、「台湾希望工程協会」の目標としている「復興」(台湾語で言う「重建」)は目前のことだけではなく、5年10年先を見越したプランであることに勇気づけられました。それは、9.21地震以後、日本の多くのみよさまが寄せて下さった支援金がこうした再建に使われることになったからでもあります。

この紙面を借りて、改めて皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

### 6.まとめ

今回は、各支援プログラムの進捗状況と合わせて、各YMCAの支援活動も視察したがKOBEの時に神戸YMCAがそうであったように、子どもを中心とした「心のケア」活動を行つた。

南投YMCAにおいては、南投県政府からの事業委託を受けてある程度の財源が確保されているが、やはり、どこも活動を継続させるには財源確保というのは一苦労のようだ。自らの復興が叫ばれ

る中で、こうしたYMCAなどを行つソフト面の活動は、忘れられがちではあるが、非常に大切なことであり、継続することに意味のあるものである。

また、感想でも述べたが、邱氏率いる「台湾希望工程協会」も新たに福亀村で「福亀村再建委員会」にオブザーバー的参画をしながら、福亀村全体の復興、産業の発展、開発に取り組んでいくことが今後の当委員会の課題といえよう。

これらの現地での取り組みを、今後どのように支援していくかが今後の当委員会の課題といえよう。